

第一回国際歯学研修会



「ミシガンとセミナーをやりませんか？」

国際姉妹校活動を主導する教授小倉英夫は、同大学との姉妹校提携の証しとして歯学研修会を提案した。「それなら」と私は、「ほかの姉妹校の学部長もよぼう」と呼応した。本学はミシガン大学のあと、昭和60年9月にパリ第七大学、同12月に華西医科大学、昭和61年3月にはベルン大学と姉妹校提携していた。

実は、ベルンを訪れた時、30代の医員に Nippon の意味を問うたが、彼は Japan と同義語とは知らなかった。けれども当時、日本は高度成長期にあって世界 No.2 と囃され、国際社会を席捲しつつあった。私たちの活動は、この国力を背景にしていると感じていた。だから私は、姉妹校4校を招くことに躊躇いはなかった。むしろ、4校の歯学部長とは、信頼と友情に結ばれていた。

第一回国際歯学研修会は、昭和61年（1986）5月17日、「歯周治療の現状」をテーマとして、新潟歯学部において開催された。来賓としてミシガン大学の R.L.Christiansen、パリ第七大学の N.Forest、華西医科大学の王大章、ベルン大学の B.Ingerval、H.Graf の各歯学部長が参列した。

総勢425名が講堂を埋めつくした。来賓方は、東洋の島国の一大学が主催する大セミナーに驚嘆し

た。欧米では歯科のセミナーに、こんな人数が集まることはない。学問と医療に国境はない — 21世紀まであと15年、斯界の国際化を先導する国際歯学研修会であった。

第二回は翌昭和62年6月、「保存修復学 — 将来の方向」をテーマとして、ミシガン大学において開かれた。第三回は昭和63年7月、「歯科インプラント」をテーマとして、東京の歯学部において開かれた。第四回は平成2年9月、「最近の修復材料」をテーマとして、新潟歯学部において開かれた。

第五回は平成4年4月、「歯科の疼痛対策」をテーマとして、マンチェスター大学において開かれた。第六回は平成8年8月、「歯科における疼痛管理」をテーマとして、ブリティッシュ・コロンビア大学において開かれた。第七回は平成13年7月、「世界の歯科保健が目指すもの — 2001東京」をテーマとして、東京の歯学部において開かれた。第八回は平成16年10月、「最先端の再生歯科医学」をテーマとして、東京の歯学部において開かれた。

本学歯学会（渡邊文彦会長）では、第九回を令和2年に日本において開催する予定と聞く。

（写真：第一回の華やかな学長招宴で、法被（はっぴ）を着た壇上の来賓方）

（※今号は、『中原 泉 回顧記録』より転載）